



朝霧の河北潟

金沢医科大学形成外科学教室
同門会

Letter No.5

2022.4

特集

第16回日本創傷外科学会総会・学術集會を金沢で開催します

2024年7月11-12日, ホテル日航金沢

同門会のみなさまお元気でしょうか, コロナ下いろいろと苦労が多いことと思います。

金沢医科大学形成外科医局はコロナにより一時期手術制限を行いましたが, 昨年後半から手術件数も回復し, 最近ほぼコロナ前までの水準に戻ってきました。なんとか, 新年度を迎えることができそうです。4月からは1名の新入医局員(島壮輔先生)を迎え, また関連施設出向中の先生も多数帰局し新しい陣容でスタートします。先生方には何かとご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが, 引き続きどうぞよろしくお願い致します。

私事を申しますと, 2020年度から2年間, 日本手外科学会副理事長を拝命し, 手外科領域での形成外科医のプレゼンスを高めることや手外科専門医制度の構築に尽力してきました。また, 「E入りキシロカインの指趾投与に関する禁忌の解除」について厚生労働省との折衝に注力し, 昨年度ようやく「禁忌」から「慎重投与」へと変更することができました。

学会役員としてこのほか, 日本熱傷学会, 日本

創傷外科学会, 日本褥瘡学会の理事も拝命しております。関連疾患に関してなにかご要望などありましたら遠慮なく申しつけてください。

さて, 同門のみなさまにお知らせがあります。

第16回日本創傷外科学会総会・学術集會の会長を拝命しました。本学会は形成外科医を中心とした約1700名で構成されている学会です。学術集會は2024年7月11-12日, ホテル日航金沢にて開催する予定としております。形成外科教授に就任して初めての全国学会です, 気を引き締めて頑張るつもりですので, 同門の先生方にはなにとぞご支援のほどよろしくお願い致します。

最後になりますが, めまぐるしく医療環境の変化するなか, 形成外科の扱う疾患も日々変化しています。現在, 乳児血管腫(イチゴ状血管腫)の内服治療, リンパ浮腫の手術治療, 血管腫の硬化療法, 難治性潰瘍に対するPRP治療(再生医療), CLI(重傷虚血肢)の集学的治療など積極的に診療していますので, 該当する患者さんがいれば是非ご紹介ください。本年度もどうぞよろしくお願い致します

島田 賢一

2021年の出来事

新型コロナウイルス感染症は終息せず, 同門会行事は中止やweb開催を余儀なくされました。2年ぶりの同門会総会はWeb開催となりました。医局の懇親会もすべて自粛となりました。

2ページ

同門会員からのたより

会員の皆様の近況報告や, 随想, 学位取得の報告などが寄せられました。

3ページ

〈訃報〉

水戸部知代先生が2020年10月5日に逝去されました。

同門会事務局・医局からのお知らせ

- ・2021年1月の評議員選挙で同門会から2名(島田賢一・小室明人)選出されました。
- ・医局にマイクロの練習室が整備しました
- ・2021年度の新入医局員を紹介します

12ページ

2021年の出来事

2020年度 同門会総会

web 開催しました。岡田先生（同門会会長）に大学の医局までお越しいただき、約 35 名が zoom 参加しました。承認いただいた会計報告、事業計画は 12 頁に掲載します。

日時：2021年6月13日 10:00～ ZOOM

議事：2019年度・2020年度事業報告、会計報告

2021年度事業計画

大学・関連施設報告

国内留学報告（柳下・米沢）

新入医局員の紹介



坂上陽彦先生(2010年入局)の歓送会

2021年10月1日 医局において、コロナ禍ならではの会食無し、アルコール無しの会となりました。

大学に戻ってからは、若手の先生方の指導や急患対応に活躍しました。特技が乳児の採血で、採血係の先生にとって心強い存在でした。今後は、関東で開業医としての新たな一歩を踏み出します。



注：お誕生日会ではありません

同門会員からのたより

岩井謙治先生（2006年入局）

岸边先生ご無沙汰しております。こうゆうの書くタイプではなかったんですが、42歳になり、そろそろ書いてもいいのかなと思って書いてみました笑まともな形成外科医にはなれてませんので、医局的に微妙ならスルーしてもらっても全然大丈夫です。まずは自己紹介から。僕は神戸大出身で、兄が金沢医大卒なこともあり、縁があったので金沢医大形成外科に入局しました。26才の時なのでちょうど16年前ですね。1つ上が宮永さんの世代、下が金子君の世代です。専門医とるまでの6年間お世話になりました。



同期の油木麻希と結婚して、地元の京都に戻りました。なので医局にとっては結果マイナス1になりご迷惑しかかけておりません笑笑もともと開業志向だったので、関西に帰ってからは京大の皮膚科で2年ほど学び、その関連で美容皮膚科を2年くらいしました。そのまま開業してもいいかなあ、とも思いましたが、こんなこと言うと怒られそうですが、皮膚科も美容皮膚科は正直あんまり面白くなく、形成外科がバックボーンなので、せっかくならオベしたいなと思い、結構安易な気持ちで美容外科に飛び込みました。医者への求人サイトから適当に見つけた銀座みゆき通り美容外科、に入職することにして、気が付いたらもう6年以上経ちました。やはり外科出身なので、オベしてるほうが面白いのもあり、今も続けてますね。主に目の下くまの手術（具体的には経結膜脱脂と脂肪注入）ですが、屈曲陰莖や、包莖、乳頭縮小や小陰唇縮小などマニアックな手術もあります。一般的な二重や鼻の手術はあまり



多くありません。最近は美容皮膚科の経験を活かし、スキンケアもかなりやってます。ヒアルロン酸やボトックスといった一般的な美容皮膚科治療も多いです。美容外科医として、オベは楽しいんですが、やはり経営に回ると純粋にオベも楽しめないんだろうな、ということに数年で気付き、自身の開業の夢はさっぱりと捨てました。開業への思いは、AGAクリニックを経営することで昇華させました笑ちなみに、1年ほど前に金沢駅の駅前に駅前AGAクリニック金沢院、というのを開業しています。院長は兄ですが笑また薄毛でお困りのかたいられましたらご紹介ください！難治性の円形脱毛症も治療しています。金沢での6年間、本当にたくさんの先生にお世話になり感謝しかありません。岸边先生にも厳しく育てて頂きました笑形成外科医としては、全く実績はありませんが、こんな人生もあるんやな、程度に後輩の人たちは参考にしてください笑。多様性の時代なので。金沢での6年間は僕の人生の宝ですし、現在の仕事にも大変役立っています。コロナで学会もオンラインで済むようになって、ますます皆さんとお会いする機会は減りましたが、また会える日を楽しみにしています。



亀井康二先生から 聞いた恐ろしい話

先年の暮れ、東京からリ●ル●トという会社の営業マンが来ました。ネットで美容医療の仲

介サイトを作り、貴クリニックの集客のお手伝いをしたいということです。1年間は無料で、今なら無料でホームページも作成しますと言ってきました。私のクリニックはほとんど口コミでくるのでそんなのいらないよと言っていたのですが、まあ、手薄な金沢方面の患者が来れば良いかなと思い、OKしたのですが、よくよく考えてみれば、彼らがもちろんタダでするはずはなく、ネット上で、患者がサイトを検索し、クリニックを予約した時に、その予約内容で手数料をいただきたいというものです。

ネット社会ですからいろいろな業者がこういうサイトを作って提携先から利益を掠め取り、さらにはゆくゆく、クリニックをがんじがらめにして利益を貪りたいと考えているのは当然です。

リクルートのシステムは、ネット上から予約した段階で、その愁訴に応じて手数料が発生するというもので、例えば、シミの相談なら3千円、二重まぶた1万2千円、顔のたるみ相談なら3万円と行った具合です。患者がその愁訴の欄に丸をつけるほどクリニック側の負担は増えます。

普段は来ない患者がくるならいいかと思ひ、営業マンと契約書を交わしたのですが、週刊ダイヤモンド誌で“歯医者へのホント”という記事をみて考えを改めました。同じようなサービスにEPARK 歯科というサイトがあり、多くの歯科医院が契約しているのです。そうすると、歯科や歯医者で検索するとEPARKの網に引っかかります。ここはかつてのITバブルで知られた光通信の子会社だそうです。“ホームページ作成や集客が1年間無料、患者さんもいっぱい来ますから試してみてください”という口説き文句に釣られて契約した歯科医院が多いそうです。検索で歯科医院を調べると

EPARKと契約している歯科医院ばかりがヒットします。検索対策しているのです。そして口コミが書いてあります。実際はありもしない口コミです。似たような仕組みを見たことはありませんか。そうです。レストランの食べログのようなサイトです。サイトに無料電話番号が表示されています。実際にはそれはクリニックの電話番号ではなく、EPARKの電話番号です。そしてネット予約のボタンもあります。要するに自動的にEPARKのサイトを經由してクリ

ニックに行きます。ですから、初診だけでなく再診の患者の予約でも手数料を搾り取られます。また、初年度無料でも、その後から年間の契約料が必要になってきます。長期契約は安くなるからと数百万円の費用を支払った歯科医院もあるそうです。また、このサイトで上位に乗せてもらうためには当然別途費用がかかることでしょう。

恐ろしや恐ろしや。

祝 黒田友集先生（2015年入局）が

2020年度学会誌「創傷」最優秀論文賞

を受賞（原著の部）！

分層植皮におけるNPWT機器を用いた固定法と

従来法の比較検討 創傷 11 巻 1 号 Page13-19(2020.01)



創傷外科学会のマスコット「なおるん」の誕生には、安田浩先生（キズ・キズアト治療キャンペーン委員会の委員長）と、鳥居祐希先生（命名）が深くかかわっています。どうぞお見知りおきください。



世代間の知識の断絶

亀井康二

iPhoneに様々な曲を入れてドライブ中に聞いています。演歌から行進曲、昭和の歌、交響曲、ポップスなどなど。その中には世界の愛唱歌などというのも入っていて、“故郷の人々”とか“おお牧場はみどり”というの時々演奏してくれます。それを聴いていた助手席の女房は半ば、ばかにしながら、あんた、そんな歌、いまの若い子はだれも知らないよといいます。えっ、こんな有名な歌を知らないのと私が驚くと、だって、音楽の時間なんか削られて、そんな歌は学校で習わないよといいます。そうか、それは寂しいな、情緒のある歌なのにな。

話は替わります。

先日、日経メディカルという雑誌を読んでいると（日経ビジネス、ヘルスケア、エコノミスト、ダイヤモンド、東洋経済、Wedge、週刊朝日、文春、新潮、newsweek 日本版、Foresight、選択などなど雑誌を読むのが好きなのです）、「吉良上野介を助けた南蛮流外科医の外傷治療」というおもしろい記事が出ていました。誰もが知っている有名な松の廊下の話ですが、実際の生々しい記録が実在するとは夢にも思いませんでした。

記事の作者は整形外科医兼作家の篠田達明という先生で、抜粋すると、「元禄14年（1701年）3月14日、江戸城本丸松の廊下で赤穂藩主浅野内匠頭が突然短刀を抜いて高家筆頭の吉良上野介に斬りかかった。驚いた上野介が振りむくと、さらに刀を浴びせて眉間を割った。内匠頭は直ちに取り押さえられ、上野介は駆けつけた高家衆に支えられて別室に運ばれた。

幕府医官の津軽意三と坂本養貞が応急処置をしたが出血が止まらない。そこで外科医の栗崎道有を呼び出すことにした。道有は江戸で南蛮流外科を開業していたが、腕を見込まれ表御番医師に任命されていたのである。彼は湯島天神下の商家に往診中だったが、召し出しを受けると急いで江戸城へ駆けつけた。大手門は大変な混乱状態で、通知状を見せてやっと入ることができた。

このときの道有が行った上野介の治療は「道有日記」に克明に記されている。上野介の傷は二カ所あり、額の切創は斜めに走る長さ三寸五、六分（約11センチ弱）のもので、眉の上は骨まで達していた。もう一カ所は背中ので、こちらは比較的浅手だったが、それでも長さは六寸余（約20センチ）あった。まず、額の傷に熱湯をかけて温めながら洗い、小針小糸を用いて六針縫った。縫い終わって石灰を混ぜた煉薬を塗り、傷口を塞いだ。背中の傷は三針縫合しただけで済んだ。こちらも額と同様、煉薬を塗り込めた。これらの処置により出血はようやく止まった。」



松川国典（二代目）『道有日記』

この記事を見てわたしは大変感嘆しました。300年前の出来事がきちんと記載されていて、かつ、縫合技術があったんだ、すごいと思いました。

さて、翌日。わたしはクリニックの昼休みに、26歳の若いスタッフに、「あの松の廊下の吉良上野介の話さー」としゃべりかけました。しかし、きょとんとしているので、「ほら、赤穂浪士の話じゃないか」というと、先生、それって、何のことですか、というので、思わず椅子からすべり落ちそうになりました。ええっ、赤穂浪士の話知らないの？という、聞いたことありませんとのたまうではないか。そこでひよっと思って、となりの22歳の子に聞くと、わたしも知りませんという。いやーびっくりした。歌だけでなく歴史の知識にも若い人とはギャップがあるんだ。しかし、うちのスタッフと同じような子たちにインフォームドコンセントをして、手術をしているんだと思うと、自分の常識が若い子の常識ではないということをふまえて話をしなければいけないんだと思う今日この頃です。

たくさんのお会いに感謝

中嶋幸仙先生（2007年入局）

平成17年金沢医大卒業で、現在の医局長の金子をはじめ、杉下、濱（旧姓小泉）と同学年の中嶋幸仙（なかじまこうせん）です。瀬戸、高畠は残念ながら医局を離れてしまいましたが、金沢医大では川上名誉教授、島田教授、岸辺准教授、公立能登総合病院では山城薫先生、産業医大では安田浩教授にご指導いただきました。

消化器外科の父の開腹手術の助手に何度も入ってきたことから外科医に強烈な憧れがありました。私は持病の都合上左半身があまり動かない（握力も3倍差）のですが、スキー部の顧問が川上先生であったことから何度も相談していました。

「出来るか？出来ないか？そんなことはどうでも良い、やってみればわかる、俺が育ててやる」と言われ形成外科の道に入りました。

私は11人兄弟姉妹（6:5）の一番上の長男です。

専門医取得の年は、開業医の父の持病が悪化して外来勤務が厳しくなり、土日祝日は大学のチームに多大な迷惑をかけました。中嶋家には社会人がまだ私しかいなかったこともあり実家も支えつつ勉強していましたが、自分も持病の悪化があり倒れてしまい、一家全滅の危機もありました。実家は危機を脱しましたが、その年は専門医試験に落ちてしまい、専門医なしに不本意ながら三重県の実家勤務を余儀なくされました。

専門医なしではやはり開業医同士でも肩身の狭い思いをします。日向に出ることなく、日陰で人生終えるのかな？なんて思っていました。数年後夏に医局に顔出した際に岸辺先生が「症例集まってるんだし、受験したら？」と。

それがきっかけに半年ほど毎週お世話になり、お陰で2014年、専門医取得できました。

また2018年春には学会で島田教授に、「三重大の成島教授にあったことある？」とのお声がけをいただいたことをきっかけに、2018年5月からコロナ禍が始まった2020年2月まで、火曜日は三重大学形成外科、水曜日は隔週ですが金沢医大形成外科で非常勤としてさらに育てていただきました。

島田教授に相談していた私の持病の左ホルネル症候群の眼瞼下垂は、2020年3月の北陸地方会で日本医科大学の村上正洋先生にライブサージャリーをしていただく予定でしたがコロナ禍で学会中止となり、2021年6月に東京で手術していただきました。



そして私事ではありますが、2021年7月に5歳下の公認会計士と入籍しました。

本来はお世話になった先生方をご招待の上、披露宴を行うべきところではございますが、コロナ禍もありこのような形でご報告することになりましたことをおゆるください。

日本一不器用な形成外科医ではありますが、大学を離れてからもずっと育ててくださった沢山の恩師の先生方、また同期、後輩達にも頼りながらこれからも元気に診療していく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。



コロナ渦から学んだこと

カメイクリニック富山院 木村哲治先生

はじめにお断りしておきますが、臨床的な話では一切ありませんし形成外科とは何の関係もありません。

で、一体何を学んだのか？

「結局、人間とは物事を感情で判断するんだな」ということをあらためて思い知ったこの1年、2年？、いや3年？……もうどうでもええわ。

別にその良し悪しを問うつもりはありません。ただ、「人間ってそんなもんなんだな」ということです。と同時に「そういう人がもの凄く多いんだな」ということを痛感したわけです。

主観の世界。

そこは理屈など存在しない自分だけの世界。家族であれ赤の他人であれ自分以外の者がそこに入る余地などありません。もし入れるとしたら同じ価値観を持つ人間だけでしょう。

衝撃的だったのはロジカルな思考が身につけているはずの医師でさえ、多くが前述のごとくであると分かったことです。文系とか理系とかも関係ない証ですね。

何かを論ずる時、感情が支配すると答えが出せなくなり延々と彷徨うことになります。

なぜならそれは真の答えを求めているのではなく、自分の気に入った答えだけを求めるようになるからなのです。

う～ん、我ながら実に深いなあ。宗教でも開くか。

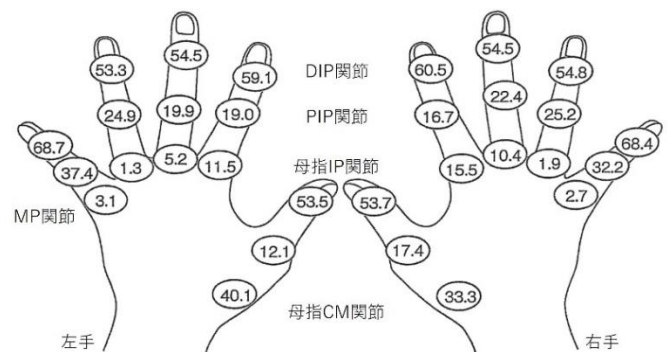


更年期女性の手の痛み

柳下幹男先生(2009年入局)

2019年4月から2021年3月まで、四谷メディカルキューブ手の外科・マイクロサージャリーセンターで研修させていただき、誠にありがとうございました。2年間、手の外科のみを集中的に学べたことは、私の大きな財産となりました。知識や手技を同門の先生方に共有できたらと思っております。

今回は更年期女性の手の痛みについて少しお話しさせていただきます。手の痛み・変形には、女性ホルモンであるエストロゲンが大きく関わっていることがわかってきています。関節包や腱周囲に存在する滑膜にはエストロゲン受容体が存在します。エストロゲンには腱の保護作用あるいは抗浮腫作用があり、減少すると滑膜が徐々に腫脹・増生してきてしまいます。女性は45歳頃から急激にエストロゲンが減少し、更年期に入ります。この時期から関節や腱の滑膜が増生していきます。関節の滑膜が増生すれば関節が痛くなり、それが長期に続くと変形性関節症へと進行します。腱周囲の滑膜が増生すると腱が太くなり滑走が悪くなるため、手がこわばったり腱鞘炎になったりします。さらに手根管には9本の屈筋腱と正中神経が走行していますが、腫れた屈筋腱で正中神経が圧迫され手根管症候群となります。単純明快な病態生理ではないでしょうか。



話は変わりますが、『手の変形性関節症の有病率と関連因子』という報告が2018年に発行された整形・災害外科という雑誌に掲載されました。大規模コホートROADスタディの結果で、平均65歳の1562名の対象者の中で手指の変形性関節症があった人は91.5%におよんでいたと報告しています。関節部位ごとの有病率を上図にお示いたします。当然この全員が治療対象者ではありませんが、手指の変形や痛みで悩んでいる人が多いことを示しています。

手の痛みのある多くの患者さんが、どうして手が痛くなったのかもわからず、治療方法も知らず、ずっとこの痛みにつき合っていかなくてはいけないかと不安になっています。まずは、原因のひとつにエストロゲンの減少がありますよと教えてあげるだけで、少し心配を減らしてあげられると思います。

近況報告

川上重彦先生

主任教授を定年退任してから4年が過ぎましたので、この4年間振り返りながら近況を報告したいと思います。

2017年3月に主任教授を退任いたしました。その後は大学の理事として3年間大学に在籍しました。最初の1年間は金沢医科大学水見市民病院のCEOを務め、その後の2年間は大学の情報管理担当理事を務めました。その間、外来診療も毎週火曜日に行い、手術に関しては依頼を受けた患者のみ担当していました。なお、2019年からは塚田先生の後任として砺波総合病院での診療も毎週水曜日の午後行っていました。

2020年3月で理事の任期が切れ、同年4月からは形成外科嘱託教授という役職で週3～4日程度病院の診療に携わる予定となりました。しかし、3月になって金沢市馬替にある南ヶ丘病院の宮崎理事長・病院長先生から南ヶ丘病院の院長になっていただけないかというご依頼を受けました。病院は2021年6月に新築・移転（野々市市へ）することもあり、理事長職として経営に専念したい、それで私に病院の管理・運営をしてもらいたい、ということでした。学会関係の仕事もほぼ一段落し、克誠堂出版の雑誌「形成外科」の編集委員もこの年末で終了、7年間にわたり平林先生と関わってきた「形成外科治療全書」全7巻の査読、編集作業もこの年度で終了する予定だったので、秋からは暇になるかと思って、2020年秋頃からならばお引き受けできる旨お返事をしてしまいました。今になって思えば、新型コロナがこれほど蔓延するとは思わず、病院移転の大変さも考えず、軽はずみな返事をしてしまったものと反省しています。

2020年9月、大学を辞職し南ヶ丘病院に赴任、同年10月から病院長に就任しました。その後、2021年5月末に金沢市馬替から野々市市蓮花寺に病院を移転、同地で6月から診療を開始し、現在に至っております。移転当初は旧病院にあった療



野々市市に新築・移転した南ヶ丘病院 *全室(120床)個室病床

養病棟を廃し、地域包括ケア病棟に変更、回復期リハビリ病棟も増床した影響もあり、入院患者数が伸び悩みましたが、秋頃から増え始め、現在はほぼ満床（120床）の状態が続いています。

私の1週間はというと、月、水、木、金は9時より18時まで院長職の傍ら外来・病棟診療、手術を行い、火曜日は午前中大学で外来診療、午後は砺波総合病院で外来診療、手術を行っています。火曜日の南ヶ丘は、宮永先生に終日診療を行ってもらっています。病院には皮膚科が無いので、皮膚科疾患にも対応しています。ちなみに、昨年1年間での手術件数は327件、うち全麻は44件でした。主な疾患としては、皮膚腫瘍131件、軟部組織損傷67件、顔面骨骨折26件（鼻骨11、頬骨12、その他3）、眼瞼下垂症24件、口唇裂変形19件です。必要に応じて、大学の先生方を助手にお願いして手術を行っています。非手術入院患者では蜂窩織炎11例、帯状疱疹5例、熱傷4例などが主な疾患です。年間の入院患者は100名でした。

私が赴任した一昨年の秋から翌年春頃までは外来患者数も15～20人程度で、手術件数も月20件前後でしたが、夏頃から増加し始めて、現在の外来患者は30人前後、手術件数も月30件以上となりました。そして、常時5名前後の患者さんが入院しており、老骨に鞭打って日々頑張っています。既に70歳を過ぎた体なのであと4、5年しかもたないと思いますが、南ヶ丘病院形成外科が金沢市南部、野々市、白山市における形成外科診療の中核病院となる基盤を作って後進に託したいと思っています。同門会諸兄のご支援をよろしくお願いたします。

学位取得報告

岡村 愛

脂肪由来幹細胞は強皮症モデルマウスの線維化を抑制する

【背景】

間葉系幹細胞 (Mesenchymal stem cells: MSC) は、多分化能、免疫抑制能、線維化抑制能をもつ細胞として注目され、様々な治療に利用されている。日本国内では 2015 年に造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病 (graft-versus-host disease: GVHD) を適応とする他家骨髄由来 MSC (テムセル[®]HS 注, JCR ファーマ株式会社) が、2018 年には外傷性脊髄損傷を適応とする自家骨髄由来 MSC (ステミラック[®]注, ニプロ株式会社) が再生医療等製品として製造販売承認された。

脂肪由来の MSC (Adipose-derived stem cells: ASC)

は、他の組織由来の MSC と比較して高い免疫抑制能と線維化抑制能を持つことが知られ、動物実験、臨床試験の双方において、多発性硬化症、関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなどの自己免疫疾患を抑制すること、虚血性心疾患、腎不全、肝硬変、特発性肺線維症などの線維化疾患を改善させることが確認されている。

全身性強皮症(以下、強皮症)は、皮膚・肺をはじめとした内臓諸臓器の線維化、血管障害を特徴とする自己免疫疾患で、重篤な多臓器障害へと至ることがあるが、病因は未だ不明で、根治的な治療法が確立されていない。強皮症の病態形成には、免疫細胞とその関連因子が強く関わりとされ、強皮症患者血清ではヘルパー T 細胞サイトカインである IL-4, IL-6, IL-13 などが上昇し、これらのサイトカインが強皮症患者の線維化を亢進させていると考えられている。さらに B 細胞から分泌される IL-6 も強皮症の病態を増悪させる因子と考えられている。すなわちこれら免疫担当細胞とサイトカインを標的とした新規治療法が強皮症において有効であることが推測される。

免疫抑制能と線維化抑制能をもつ ASC が、免疫異常、臓器の線維化を特徴とする強皮症の新規治療薬となる可能性を考えた。

【目的】

本実験は、強皮症モデルマウスにおける ASC の線維化抑制効果について解析し、強皮症に対する新規治療法の開発を目的としている。

【方法】

プレオマイシン誘発強皮症モデルマウス (以下プレオモデル) への ASC 投与

プレオモデルは、プレオマイシンをマウスの背部皮内に投与することで、皮膚及び肺の線維化を誘導でき、強皮症モデルとして最も使用

されている。

C57BL/6 マウスの背部皮内にプレオマイシンを 4 週間連続投与して皮膚および肺の線維化を誘導した。ASC は自家 ASC 投与モデルとして C57BL/6 由来の syngenic ASC を経静脈的に第 0 病日に 1 回のみ投与し、15 日目と 29 日目に評価した。

皮膚硬化型慢性 GVHD モデルマウス (以下 GVHD モデル) への ASC 投与

もう一つの強皮症モデルマウスとして、balb/c マウスにマイナー組織適合抗原不一致の B10.D2 マウス由来の骨髄を移植をした皮膚硬化型慢性 GVHD マウス (以下 GVHD モデル) が用いられている。GVHD モデルの第 0 病日に PBS ないしは他家 ASC 投与モデルとして C57BL/6 マウス由来の allogenic ASC を 1 回のみ静脈内投与した。

【結果】

プレオモデルへの syngenic ASC 静脈内投与は、PBS 投与群と比べて皮膚の線維化と肺の線維化を抑制し [図 1]、皮膚への CD4⁺、CD8⁺T 細胞、マクロファージの浸潤を抑制した [図 2]。また、皮膚における IL-6、IL-13、1 型コラーゲンの発現を減少させ [図 3]、脾臓における TNF α 、IL-13、IL-17⁺CD4⁺T 細胞、IL-6 産生エフェクター B 細胞の発現頻度を低下させた [図 4]。

GVHD モデルへの allogenic ASC 静脈内投与は、PBS 投与群と比べて皮膚線維化、肺線維化を抑制した [図 5]。

【考察】

強皮症の病態において、IL-6、IL-13、IL-17 などの線維化促進サイトカインとマクロファージの活性化が線維芽細胞を刺激し、コラーゲンを産生し線維化が亢進することが知られている。ASC は IL-6、IL-13、IL-17 などの線維化促進サイトカインとこれらのサイトカインを産生する T 細胞と IL-6 産生エフェクター B 細胞、マクロファージの増殖と活性化を抑制することで強皮症マウスの線維化を抑制したと考えられる [図 6]。

【結論】

ASC は強皮症患者の有効な治療薬となる可能性が示唆された。

<ひとこと>

本論文“Adipose-derived stromal/stem cells successfully attenuate the fibrosis of scleroderma mouse models.”は、2020 年 2 月に International Journal of Rheumatic Diseases に掲載され、2020 年 3 月に金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学博士を取得することができました。

研究、論文執筆、学位取得にあたり、金沢大学皮膚科名誉教授竹原和彦先生、教授松下貴史先生、金沢大学形成外科小室明人先生をはじめ、金沢大学皮膚科、形成外科の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。また、大学院進学を承諾してくださった川上重彦先生、島田賢一先生はじめ金沢医科大学形成外科の皆様には深く感謝申し上げます。

ASC の抗炎症作用や線維化抑制作用は形成外科領域の治療にも応用できる大きな可能性を持つ細胞だと感じています。現在実験を引き継いでくれている金沢大学形成外科の井川祐一先生の今後の研究に期待しています。

現在私は、大塚美容形成外科金沢院で勤務しています。美容外科を勉強しながら、皮膚科の開業医なつこクリニックで形成外科と皮膚科の診療をおこなっています。

今後は美容外科で得た知識をいかしてより良い形成外科診療をおこなうこと、美容外科医療全体をより安全で信頼できる医療にしていけることを目指して努力を続けます。

今後ともご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

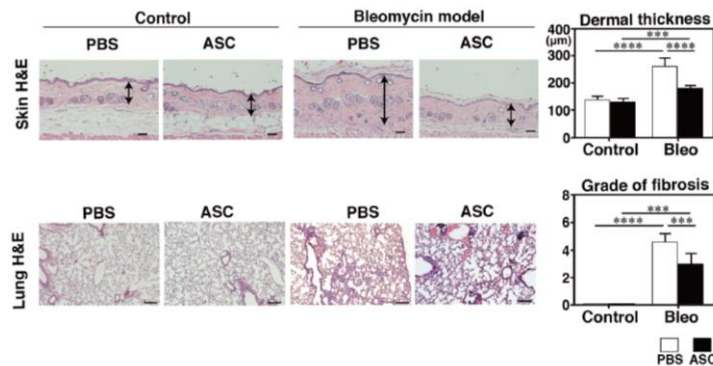


図 1：ブレオモデル皮膚 HE 染色、肺 HE 染色
ASC 投与群で皮膚の線維化は有意に抑制された。

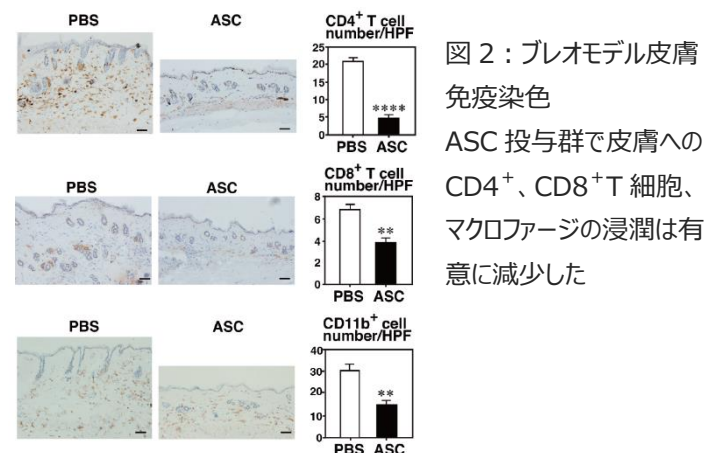


図 2：ブレオモデル皮膚免疫染色
ASC 投与群で皮膚への CD4⁺、CD8⁺T 細胞、マクロファージの浸潤は有意に減少した

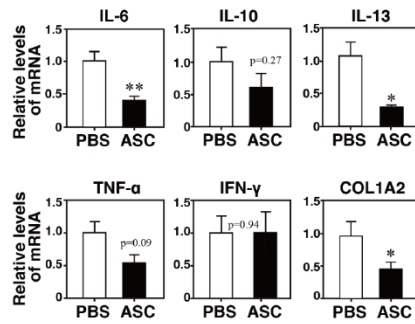


図 3：ブレオモデル皮膚リアルタイム PCR
ASC 投与群で皮膚における IL-6, IL-13, 1 型コラーゲンの発現を有意に減少させた。

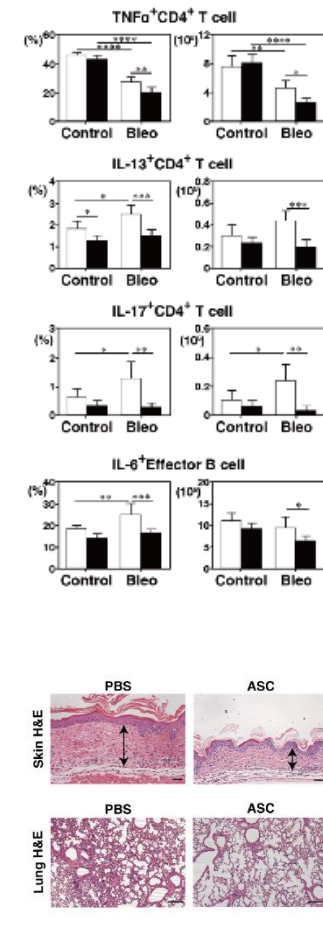


図 4：ブレオモデル脾臓 フローサイトメトリー
ASC 投与群で脾臓における TNFα, IL-13, IL-17⁺CD4⁺T 細胞、IL-6 産生エフェクター B 細胞の発現頻度が有意に低下した。

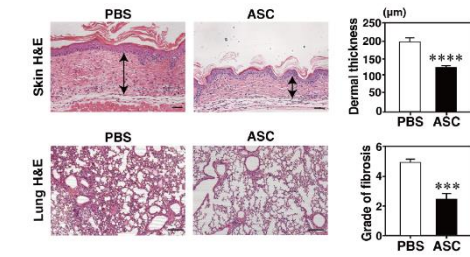
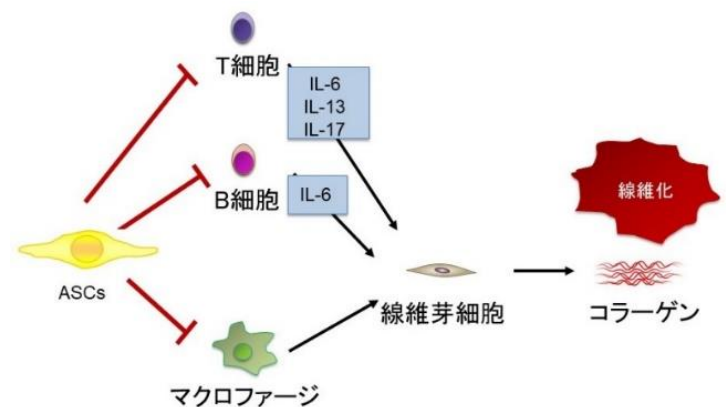


図 5：GVHD モデル皮膚 HE 染色、肺 HE 染色
ASC 投与は、皮膚線維化、肺線維化を有意に抑制した。

図 6：考察



水戸部知代先生の思い出

安藤 由美子

この度同門会誌に水戸部先生の思い出を書く機会をいただきました。

水戸部先生が亡くなられて1年半ほどになりましたが、長年の友人を失った寂しさは未だ薄れません。とてもたくさんの思い出が甦ってきます。

彼女と初めて会ったのは約35年前当時私が、所属していた聖マリアンナ医大形成外科から熱傷の勉強をするため金沢医大の熱傷センターへ行かせていただいた時でした。

忙しい毎日に少し慣れたころ、医局の忘年会で、同期という彼女に紹介されました。

「東京からわざわざ熱傷の勉強をしに来た先生ってどんな人かと思った！」と、いたずらっぽく笑った彼女の笑顔と声がとても印象的で親しみを覚え、今でも目と耳に焼き付いて忘れられません。

その後熱傷センターで毎日忙しい日々を一緒に過ごしましたが、きびきびと動き回って仕事をこなし、そしてよく勉強をしている彼女をいつも尊敬していました。同い年ということもあって何となく気が合い、少ないプライベート時間にも片町や香林坊へ連れて行ってもらいました。

寒さが身にしみるある夜のことです。ふと空を見上げると、横殴りに降っている雪とネオンが重なって見え、とてもきれいでした。その時、白いコートの下に半そでのワンピース姿の彼女が「なにそんな厚着しているの?! 全然寒くないじゃない。」とケラケラ笑っている



のです。雪とネオンの中でのその彼女の姿が情景の中でとても凛々しく美しく感じたことをはっきりと覚えています。

暫くして私はマリアンナの医局に戻りましたが、その年に西安で中国との交流学会があり、私たちは各々の医局から参加させていただきました。中国でも、学会中一緒に講演を聞き、一緒にイベントを楽しみました。

普段泣き言など言わない彼女が、兵馬俑博物館の野外トイレにドアがなくて本気で泣きベそをかいていたこと、京劇の観劇後宿舎に戻るとすでにお湯が使える時間が過ぎており冷たいシャワーを浴びて翌朝めそめそしていたことなどが懐かしく楽しく思い出されます。

それから数年後、彼女のご主人とともに神奈川県へ移ってこられ、聖マリアンナの形成外科、そして皮膚科へと移籍されました。それからは家族ぐるみのお付き合いが始まりました。

彼女は周囲の人に大変気遣いのできる優しい人でしたが、私の子供たちにも大変優しく楽しく接してくれました。まだ小さかった娘



たちは「チョコちゃん、チョコちゃん」となつき、一緒に旅行に行ったりもしました。

お互い開業医になってからはいろいろ情報交換もできて、彼女から教わることも多くありました。困ったこともいろいろ相談し合ったりもしました。

彼女の病気がわかってからは、彼女の気丈さ・芯の強さを改めて感じさせられました。事実をしっかりと見つめて、弱音を吐かず、少なくとも私の前では明るく闘病をしていたように思います。一緒に食事をしたり話をしていると、まるで何もなかったかのように、もうすっかり病気が失せてしまったかのように思ってしまう事さえありました。けれどやはり2020年10月、その時が来てしまいました。

彼女の葬儀で飾られていた写真は、とても華やかでおしゃれで、若い時からずっと変わらず素敵だった彼女がにこやかに笑って映っていました。とても素敵な笑顔でした。

これからもずっと付き合っていくものと勝手に思っていたのことも悔しいです。たくさんの写真を眺めながら今もいろいろ思い出して、彼女のことを偲んでいます。ご冥福をお祈りしております



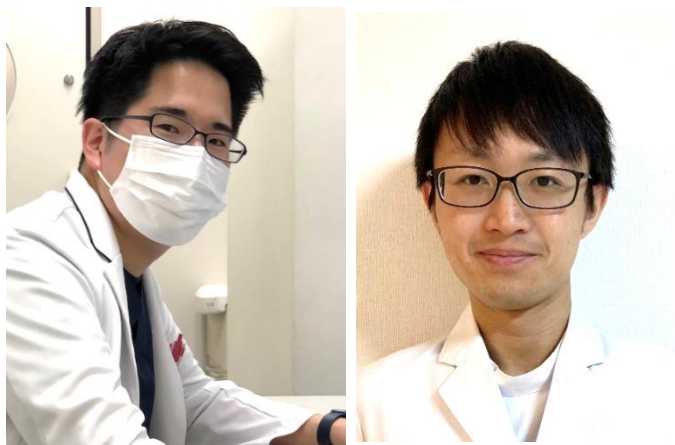
2019年11月

医局からのお知らせ

マイクロの練習部屋を整備しました

かつて実験室として使用していた部屋に、手術室で不要になった顕微鏡を貰い受け、常時マイクロの練習ができるようにしました。対面式なので、学生や研修医の教育にも利用できます。

金沢医科大学形成外科専門研修プログラム 2021年度の新専攻医3名が研修を開始しました



(左) 林 瑶：富山大卒
(右) 竹内 一博：金沢大卒
竹森 理帆：福井大卒（育児休暇中）

同門会事務局からのお知らせ

日本形成外科学会評議員選挙について

2021年1月に行われた評議員選挙で、同門会からは島田賢一先生（金沢医科大）、小室明人先生（金沢大）の2名が中部地区から選出されました。

※重要なお知らせ

2023年1月に形成外科学会評議員選挙があります。
2022年度の年会費を6月までに納入した専門医、会員歴10年以上の方が選挙権を得ます。
年会費の納入をお忘れなくお願いいたします。

2022年度の同門会費の納入をお願いいたします

新年度分の振込取扱票は、同門会総会のお知らせと共に、後日郵送いたします。

レターの原稿を募集しています

特に締め切りなどは設けておりませんので、お手すきの時にお書きいただければと思います。事務局までお送りください。

柳下幹男先生共著の本が出版されました

2割引きでご購入いただけますので、ご希望の方は医局までご連絡下さい。（克誠堂出版、平瀬雄一編、Team手の外科（四谷メディカルキューブ著）



2020年度会計報告

収入		支出	
2019年度繰越金	67,322	雑費(慶弔, 開院祝い)	76,703
2020年度年会費(×80)	400,000	通信費	65,019
		事務委託費	10,000
		2020年度繰越金	315,600
計	467,322	計	467,322

2021年度予算案

収入		支出	
2020年度繰越金	315,600	通信費	50,000
2021年度年会費(85名)	425,000	事務委託費	10,000
		雑費(慶弔, 開院祝い)	100,000
		会議費(Zoomライセンス料・新年会補助)	200,000
		2021年度繰越金	380,600
計	740,600	計	740,600

〒920-0231

石川県河北郡内灘町大学 1-1

金沢医科大学形成外科

Mail: prs@kanazawa-med.ac.jp

FAX: 076-286-8915